

## 肺血栓塞栓症に対する運動療法およびマッサージに関しまして

Q: エコノミークラス症候群の際、整復師としてマッサージを行ってよいか。

A: この度の震災発生にあたり、様々な業種の方々がそれぞれのお立場で、被災地にご協力いただいているものと存じます。

エコノミークラス症候群（深部静脈血栓症および肺血栓塞栓症）につきましては、被災地での発症予防が急務とされております。被災地は、時折寒波が襲い、避難所によってはトイレなど生活に最低限必要なインフラまでが整備されていないこと、飲み水の確保困難なこと、などから、肺血栓塞栓症が発生しやすい状況にあります。

エコノミークラス症候群の予防に、運動療法およびマッサージの重要性が挙げられます。しかしながら、エコノミークラス症候群を発症した方には**下肢のマッサージは禁忌**になります。下肢の静脈にある血栓を移動させ、肺血栓塞栓症を誘発する可能性があるのであります。

ご質問の中にもございましたが、被災より1週間を経過し潜在的な肺血栓塞栓症発症のリスクが高まっておりますが、被災地での運動療法およびマッサージ施行の際には下記の点にご留意いただきたくおもいます。

マッサージを始められる前に、『エコノミークラス症候群の予防に関するパンフレット』を参照いただき、肺血栓塞栓症を疑わせる症状がないかをご確認ください。併せて、片側の下肢の腫脹・疼痛、下肢表在静脈の怒張、臈径部の圧痛、下肢の腫脹・疼痛、下肢表在静脈の怒張、臈径部の圧痛、ふくらはぎの把握痛、足関節背屈でのふくらはぎの疼痛、などは深部静脈血栓を疑わせる所見ですので、マッサージ中にそのような症状が出現した場合は、すぐに医師にご相談ください。また、マッサージ後にもパンフレット記載の症状の出現に留意いただくようお願いください。

重要なことは肺血栓塞栓症の予防であり、整復師の方々が被災者の方々に、マッサージの際に、症状の有無を確認していただくこと、さらに、実際のマッサージの前に下肢を中心に観察をいただくこと。マッサージ中に上記注意事項に関しご留意いただくことで、危険性は軽減できると考えます。是非、**医師をはじめとする医療者との協力をいただき、現地での肺血栓塞栓症予防にお力をお貸しください。**